

別記様式第9号

さとうきび等安定生産体制緊急確立事業に関する事業評価票

事業名	都道府県名 地区名	事業実施 主体名	対象作物等	事業実施 年度	成果目標の 具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	基金管理団体の意見
						基準年 (計画策定時) 平成23～ 24年	目標値 平成27年	実績値 令和4年	達成率		
1 甘味資源 作物増産 緊急対策 事業	鹿児島県 種子島地区	種子島糖業振興会	さとう きび	平成25 年度	さとうきび生産量を平 年水準に増加	154,359トン	186,668トン	154,941トン	1.8%	・関係機関等推進体制の 整備、協議会の開催 ・優良事例調査活動 ・栽培技術講習会、パン フレット作成 ・農業共済制度への加入 促進資料作成 ・事務費	担い手の育成支援や生産技術に関 する情報提供など、生産量向上に 向けた各種取組を実施したが、R4 年産は台風14号や12月、2月の低 温等による生育への影響が見ら れ、また、基準年に比べて収穫面 積が減少したこと等により、目標 を達成できなかった。単収向上や 面積確保に向けた各種取組を引き 続き行う必要がある。
2 甘味資源 作物増産 緊急対策 事業	鹿児島県 西之表地区	西之表市さとうきび生 産振興総合対策推進会 議	さとう きび	平成25 年度	さとうきび生産量を平 年水準に増加	44,949トン	53,006トン	44,551トン	-4.9%	・農作業受託料助成 ・土壌改良資材購入費助 成 ・マルチ購入費の助成 ・薬剤購入費助成 ・事務費	マルチ被覆栽培の推進、土づくり など単収向上に向けた各種取組を 実施したが、生産者の高齢化等 に伴う離農によって収穫面積が減少 したこと等により、目標を達成で きなかった。単収向上や面積確保 に向けた各種取組を引き続き行う 必要がある。
3 甘味資源 作物増産 緊急対策 事業	鹿児島県 中種子地区	中種子町さとうきび生 産対策協議会	さとう きび	平成25 年度	さとうきび生産量を平 年水準に増加	81,588トン	102,559トン	82,512トン	4.4%	・土壌改良資材の購入費 助成 ・マルチ購入費の助成 ・農作業受託料の助成 ・事務費	土づくりの推進・マルチ被覆栽培 等単収向上に向け各種取組を実施 したが、生産者の高齢化等に伴う 離農によって収穫面積が減少した こと等により、目標を達成できな かった。単収向上や面積確保に向 けた各種取組を引き続き行う必要 がある。
4 甘味資源 作物増産 緊急対策 事業	鹿児島県 南種子地区	南種子町糖業振興会	さとう きび	平成25 年度	さとうきび生産量を平 年水準に増加	27,822トン	31,189トン	27,721トン	-3.0%	・マルチ購入費の助成 ・農作業受託料助成 ・土壌改良資材の購入費 助成 ・薬剤購入費の助成 ・事務費	マルチ被覆栽培・土づくりの推進、 農作業の円滑化など単収向上に向 けた各種取組を実施したが、R4年 産のさとうきびは、台風14号の影 響による生育遅れ等の影響により 目標を達成できなかった。単収向 上や面積確保に向けた各種取組を 引き続き行う必要がある。

別記様式第9号

さとうきび等安定生産体制緊急確立事業に関する事業評価票

事業名	都道府県名 地区名	事業実施 主体名	対象作物等	事業実施 年度	成果目標の 具体的な内容	成果目標の達成状況				具体的な取組内容	基金管理団体の意見
						基準年 (計画策定時) 平成23～ 24年	目標値 平成27年	実績値 令和4年	達成率		
5 甘味資源 作物増産 緊急対策 事業	鹿児島県 奄美大島 地区	大島本島さとうきび生 産対策本部	さとう きび	平成25 年度	さとうきび生産量を平 年水準に増加	17,866トン	33,663トン	28,390トン	66.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培技術講習会, パンフレット作成</li> <li>・農業共済制度への加入促進資料作成</li> <li>・堆肥購入費助成</li> <li>・薬剤購入費助成</li> <li>・事務費</li> </ul>	経営基盤の強化や生産技術の向上対策等を実施したが、生産者の高齢化等による収穫面積の減少等のため、目標を達成できなかった。単収向上や面積確保に向けた各種取組を引き続き行う必要がある。
6 甘味資源 作物増産 緊急対策 事業	鹿児島県 龍郷町地 区	龍郷町さとうきび振興 会	さとう きび	平成25 年度	さとうきび生産量を平 年水準に増加	1,598トン	3,266トン	1,243トン	-21.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散水車, ポンプ等の借上料助成</li> </ul>	散水車, ポンプ等による干ばつ対策により早期回復を図ったが、R4年産は高齢化等による離農や担い手不足などの影響により目標を達成できなかった。単収向上や面積確保に向けた各種取組を引き続き行う必要がある。